



木の家だいすきの会 通信

2018年5月発行

特定非営利活動法人 木の家だいすきの会
E:Mail: office@kinoie.org
URL: http://www.kinoie.org
facebook:
http://www.facebook.com/NPO.KinoieDaisuki

■東京事務所 & 木の家づくりの相談室
〒102-0081 東京都千代田区四番町3-10 番町 MK ビル 301
TEL 03-6261-2970 / FAX 03-6261-2971
■所沢事務所
TEL 04-2937-7344

造作家具やこんな物！ 大工が造るから『ぴったり！』

■学習机と引出収納

既製品ではこのスペースにあう物がなく、お施主さんからのご相談があり、造りました。現在はリビングの片隅に置いていますが将来は子供部屋に移動するそうです。



■おばあちゃんのみシン台

桧の天板にクルミの木を埋め込んでみました。

この台を置くところは納戸兼洗濯干しスペースで窓が大きい腰高窓で、机の高さが既製品にはないため造りました。



■オニグルミの食卓テーブルとベンチ

食卓テーブルは広葉樹のオニグルミです。硬い木で加工が大変ですが、とても部屋に溶け込んでいます。ベンチは杉や桧で造っています。



■手づくり洗面台

鏡の裏は収納になっています。洗面器は既製品ですがその他は造作家具で造っています。



■子供部屋にベッドと学習机

小さな子供部屋でも、立体的に空間利用すると、スペースを広く使えるようになります。ベッドを上を造り、その下のスペースに学習机をベッド寸法にあわせて造りました。お子様に大人気でした。



■さくらのリビングテーブル

写真ではわかりにくいですが、引出もテーブル下に造っています。



■大収納の手作りキッチンと食器棚

キッチン天板は手板金で造ってもらい、キッチン下台、引出は大工の手造りです。システムキッチンも良いですが、造作キッチンも良い物です。



見学会などのお知らせ

2018年5月13日(日) 石神井の2軒の住まう木の家をめぐる見学会 @東京都練馬区

2018年6月2日(土) 狭山丘陵で里山の手入れと薪市場 @埼玉県所沢市

コラム：住宅の床下空間

「家族が増えた」「地震に強い家に」「冬が寒い」など理由は様々ですが、今ある家を改修したいという話をよく耳にします。

では、実際にその家は、どのような状態でどれ程の性能なのか。改修をするにしてもどのような状態かわからないのでは、計画をすることもできません。そこで、計画前に建物がどのような状態が把握するため、小屋裏や床下に入り柱や梁の繋ぎ方や雨漏り、シロアリの形跡、断熱材の有無などを調査します。

普段生活しては見ることもない床下がどのような状況にあるのか、ここではご紹介をしたいと思います。

■床下にキノコが生えていた事例

これは床下に生えたキノコです。どこからか孢子が入り生えたものですが、他にも見られることからこの床下がキノコの生育するのに適していることがわかります。建物周辺には、樹々がしげり都心の住宅地よりも湿度が高いことにくわえ、空気が通り抜けにくい基礎の形状のためだと考えられます。床下の湿度が高い場合は、キノコだけでなくカビや木材を腐らせる腐朽菌が発生しやすいため、改修時には地面からの湿気対策が必要です。



■シロアリの事例

写真の中央に灰色の線が入っていますが、これはシロアリが作る蟻道とよばれるものです。シロアリは地中から地上へ出る際に光や乾燥から身を守るため土の道をつくります。この写真の蟻道は地中から床束をのぼり下地の合板まで伸びており、床下と小屋裏から確認しましたが、柱や土台に目立った食害はありませんでした。改修時には、コンクリートを打設したり、防蟻処理を行いシロアリが侵入しにくい状態にすることが必要です。



■断熱材がない事例

これは築39年の床下です。耐震と断熱改修の依頼があり調査をしました。冬が寒いということでしたが、写真のとおり床下には断熱材が入っていませんでした。床下は外からの空気が入ってきているため、床は冷やされ、足元から寒さを感じていたと思われます。予算的に全室を断熱改修するのが難しいため、寝室とトイレ、洗面所を重点的に改修計画をしています。



築年数だけでなく、工事内容や周囲の状況により床下の状況は様々で、どの住宅でもこのような状況が必ずしも発生するわけではありませんが、床下は建物を支える基となる部分だけに、きちんと調査をする必要があると常々感じます。

こもり設計室
小森 正和



当麻工務店
当麻 浩成

